

2020年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し



免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第3四半期累計実績

連結

- ✓ 売上高： 医療分野を中心に好調に推移し、為替を除く実質ベースで6%増収
- ✓ 営業利益： 過去最高となる785億円。各段階利益で大幅な増益を達成
 - ✓ 販管費は前年同期比262億円減、販管費率は5.7pt改善し、49.8%

セグメント別

- ✓ 医療分野： 中国の高い売上成長（+31%）が牽引し、過去最高の売上高、営業利益を計上
- ✓ 科学事業： 過去最高の営業利益を更新

業績見通し

- ✓ 第3四半期までの進捗を踏まえて、売上高、営業利益を上方修正

01

**2020年3月期 第3四半期
連結業績および事業概況**

2020年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 1** 売上高： 内視鏡事業、治療機器事業および科学事業が堅調に推移し、増収（為替影響除き+6%）
- 2** 営業利益： 販管費の効率化の順調な進捗と前年同期の一時費用の減少により、3Q累計として過去最高を達成

第3四半期累計実績（4-12月）

(単位：億円)	第3四半期累計実績（4-12月）		前年同期比	為替影響調整後
	2019年3月期	2020年3月期		
売上高	5,810	1 5,951	+2%	+6%
売上総利益 (売上総利益率)	3,784 (65.1%)	3,809 (64.0%)	+1%	+5%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,225 (55.5%)	2,964 (49.8%)	▲8%	▲6%
その他の収益および費用等	▲353	▲61	-	-
営業利益 (営業利益率)	206 (3.5%)	2 785 (13.2%)	+281%	+322%
税引前利益 (税引前利益率)	136 (2.3%)	742 (12.5%)	-	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	65 (1.1%)	591 (9.9%)	-	-
EPS	5円	45円		
円/USドル	111円	109円		
円/Euro	129円	121円		
円/CNY	17円	16円		

第3四半期実績（10-12月）

(単位：億円)	第3四半期実績（10-12月）		前年同期比	為替影響調整後
	2019年3月期	2020年3月期		
売上高	1,992	2,059	+3%	+8%
売上総利益 (売上総利益率)	1,296 (65.0%)	1,303 (63.3%)	+1%	+6%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,102 (55.3%)	997 (48.4%)	▲10%	▲7%
その他の収益および費用等	▲18	▲31	-	-
営業利益 (営業利益率)	176 (8.8%)	275 (13.4%)	+57%	+79%
税引前利益 (税引前利益率)	164 (8.2%)	256 (12.4%)	+57%	+57%
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	120 (6.0%)	231 (11.2%)	+92%	+92%
EPS	-	-		
円/USドル	113円	109円		
円/Euro	129円	120円		
円/CNY	16円	15円		

2020年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

- 1** 内視鏡： 増収および販管費の効率化等により、前期の一時費用（97億円*）を除いても、大幅な増益を達成
- 2** 治療機器： 全領域売上が順調に推移し、増収増益
- 3** 科学： 生物顕微鏡、産業製品の売上増加と販管費の効率化により、3Q累計として過去最高の営業利益
- 4** 映像： 前年同期の一時費用が減少し、損益は改善

第3四半期累計実績（4-12月）

単位：億円		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	3,038	3,151	+4%	+8%
	営業利益	658	1 916	+39%	+48%
治療機器	売上高	1,606	1,636	+2%	+6%
	営業利益	208	2 225	+9%	+15%
科学	売上高	732	766	+5%	+8%
	営業利益	50	3 80	+62%	+79%
映像	売上高	383	347	▲9%	▲6%
	営業損益	▲131	4 ▲74	+58億円	+61億円
その他	売上高	50	50	▲1%	▲1%
	営業損益	▲22	▲18	+4億円	+4億円
全社・消去	営業損益	▲556	▲344	+212億円	+211億円
連結合計	売上高	5,810	5,951	+2%	+6%
	営業利益	206	785	+281%	+322%

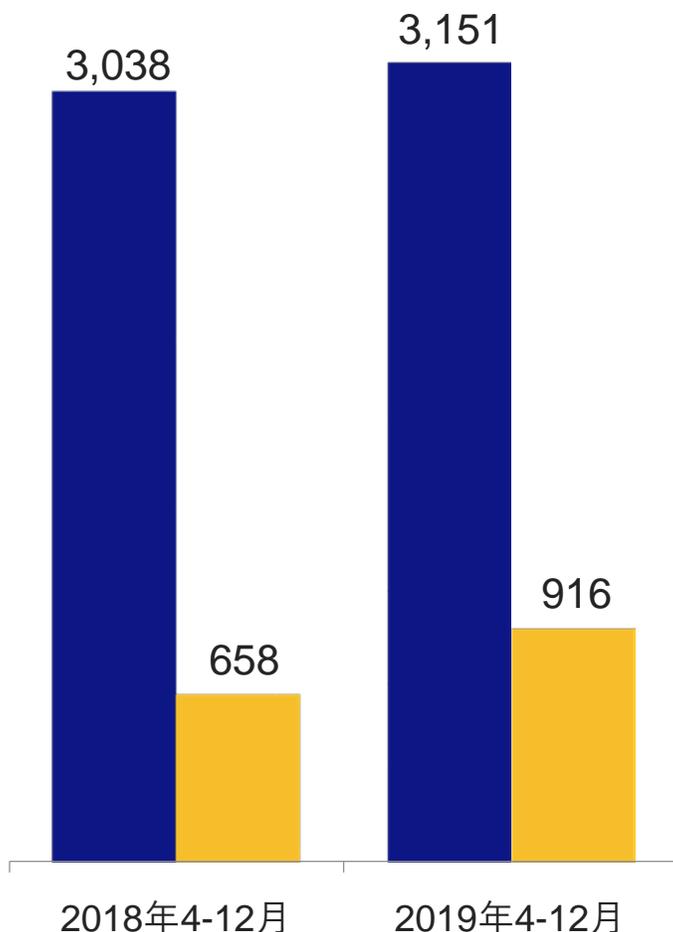
第3四半期実績（10-12月）

単位：億円		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,030	1,083	+5%	+10%
	営業利益	242	318	+31%	+43%
治療機器	売上高	558	556	0%	+4%
	営業利益	77	73	▲5%	+5%
科学	売上高	259	269	+4%	+8%
	営業利益	22	26	+22%	+48%
映像	売上高	127	134	+6%	+10%
	営業損益	▲39	▲17	+22億円	+21億円
その他	売上高	18	16	▲9%	▲9%
	営業損益	▲8	▲5	+3億円	+3億円
全社・消去	営業損益	▲117	▲120	▲3億円	▲3億円
連結合計	売上高	1,992	2,059	+3%	+8%
	営業利益	176	275	+57%	+79%

2020年3月期 第3四半期実績 ③内視鏡事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ **売上高** 中国の高い売上成長 (+37%) を主要因として、海外が好調に推移し、増収 (為替影響除き+8%)

✓ **営業利益** 増収および販管費の効率化により、大幅な増益

第3四半期累計実績 (4-12月)

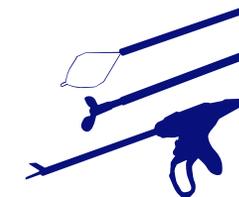
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,038	3,151	+4%	+8%
営業利益	658	916	+39%	+48%
その他の損益*	▲69	▲6	-	-
営業利益率	21.6%	29.1%		29.7%

第3四半期実績 (10-12月)

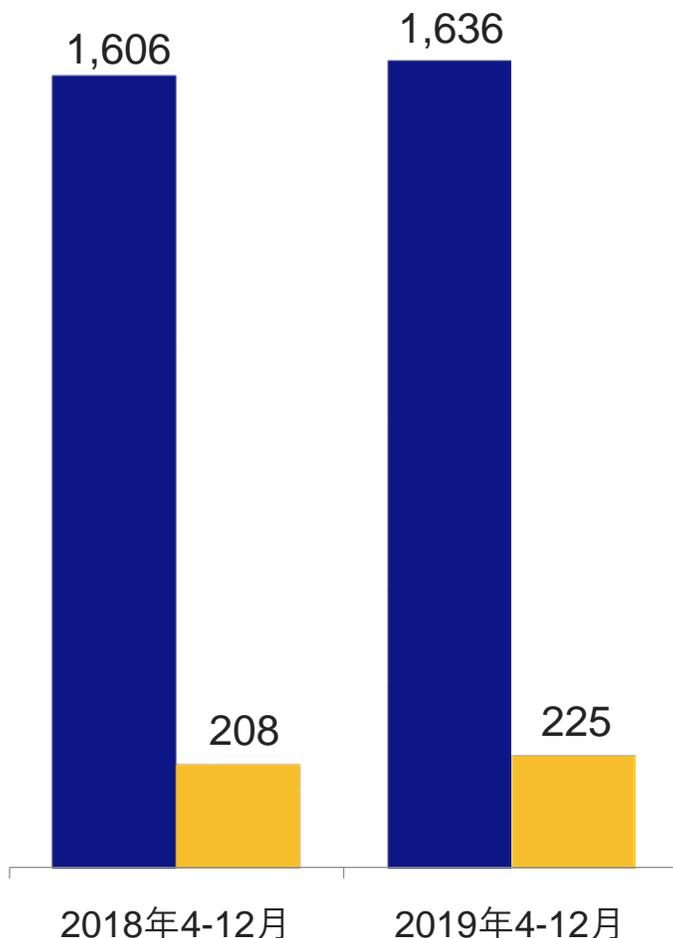
FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
1,030	1,083	+5%	+10%
242	318	+31%	+43%
1	▲4	-	-
23.5%	29.3%		30.6%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

2020年3月期 第3四半期実績 ④治療機器事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ **売上高** 処置具をはじめとして全領域で売上を伸ばし、増収（為替影響除き+6%）

✓ **営業利益** 増収を主な要因として、増益（為替影響除き+15%）

第3四半期累計実績（4-12月）

単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,606	1,636	+2%	+6%
営業利益	208	225	+9%	+15%
その他の損益*	0	▲11	-	-
営業利益率	12.9%	13.8%		14.1%

第3四半期実績（10-12月）

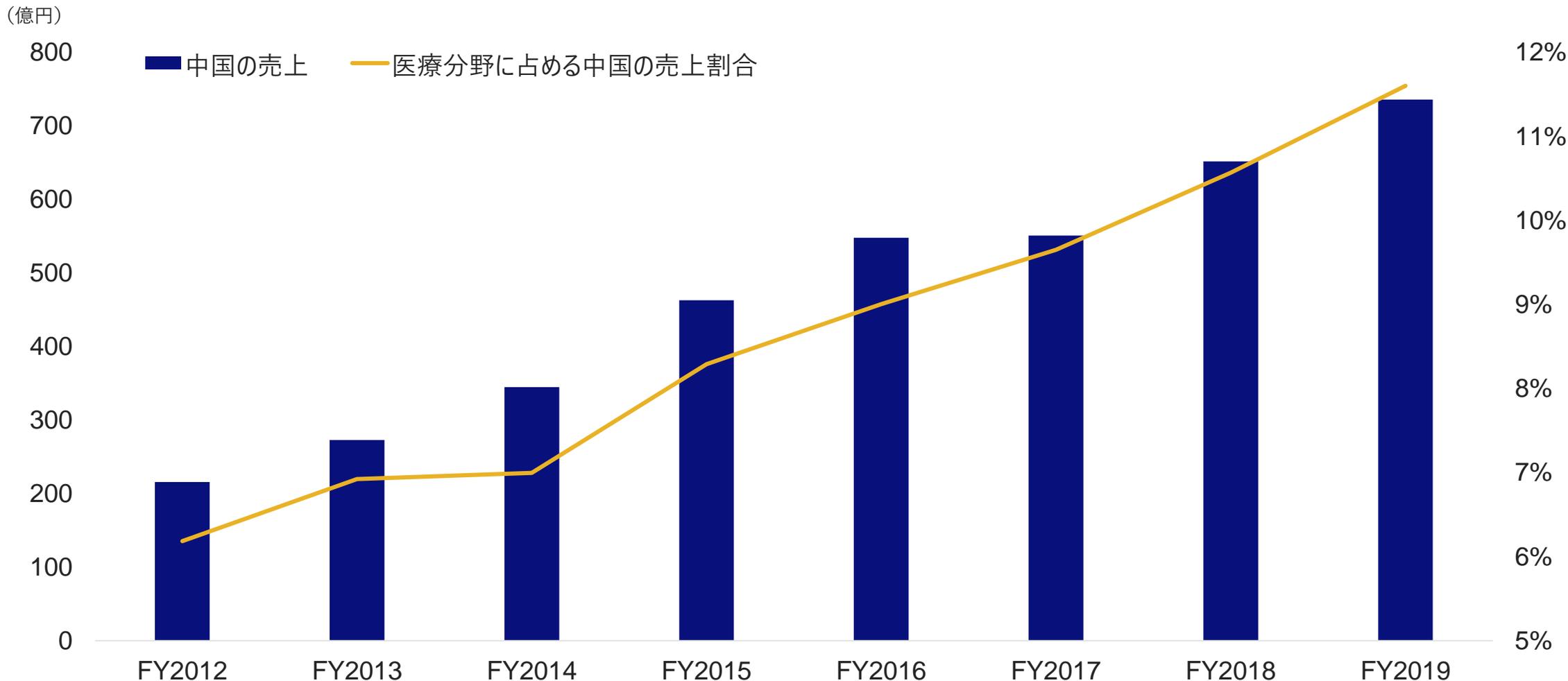
FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
558	556	0%	+4%
77	73	▲5%	+5%
▲1	▲4	-	-
13.7%	13.2%		13.9%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

高い成長が続く中国市場

医療分野の売上における中国の割合は急速に拡大し、現在は医療分野の約12%を占める

【医療分野における中国の売上成長推移】



中国市場が好調な要因

中国政府の政策の後押しもあり、2級病院への販売が増加し、中国の成長が加速

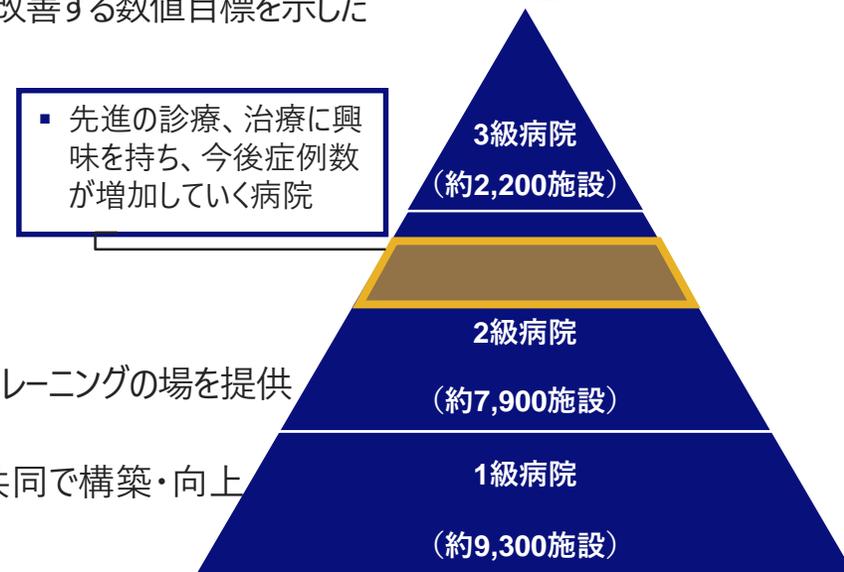
政策

- ✓ 「衛生事業発展第12次5か年計画」を公表（2011年～2015年）
 - ✓ 末端の医療衛生機関の標準化を進め、県級医院等の医療水準の向上を目指した
- ✓ 「健康中国2030」を公表（2016年）
 - ✓ 予防医療を強化する方針を打ち出し、重点項目の1つとして「重大疾病の予防」を掲げた
- ✓ 「衛生事業発展第13次5か年計画」を公表（2016年～2020年）
 - ✓ 慢性疾患とがんの発生率の高い地域で、主要ながんに対する早期診断率を55%にすることを指す
- ✓ 「健康中国実施工動意見」を公表（2019年）
 - ✓ 早期診断・治療を促進し、がんの5年生存率を2022年に43.3%以上、2030年には46.6%以上に改善する数値目標を示した
- ✓ 「県級病院総合能力レベルアップ計画」を公表（2019年）
 - ✓ 国家衛生健康委員会医政医管局が500の県級病院と500の中医病院を三級病院又は三級中医病院と同等の医療水準に引き上げることを目指す

オリンパスの取り組み

- ✓ 内視鏡医の育成サポート
 - ✓ 北京、広州、上海に自社トレーニング施設、病院内に共同トレーニング施設を保有し、医師のトレーニングの場を提供
- ✓ 病院・学会との連携
 - ✓ 約50年前に市場参入した信頼関係を生かし、病院、学会と連携し、地域の医療環境を共同で構築・向上

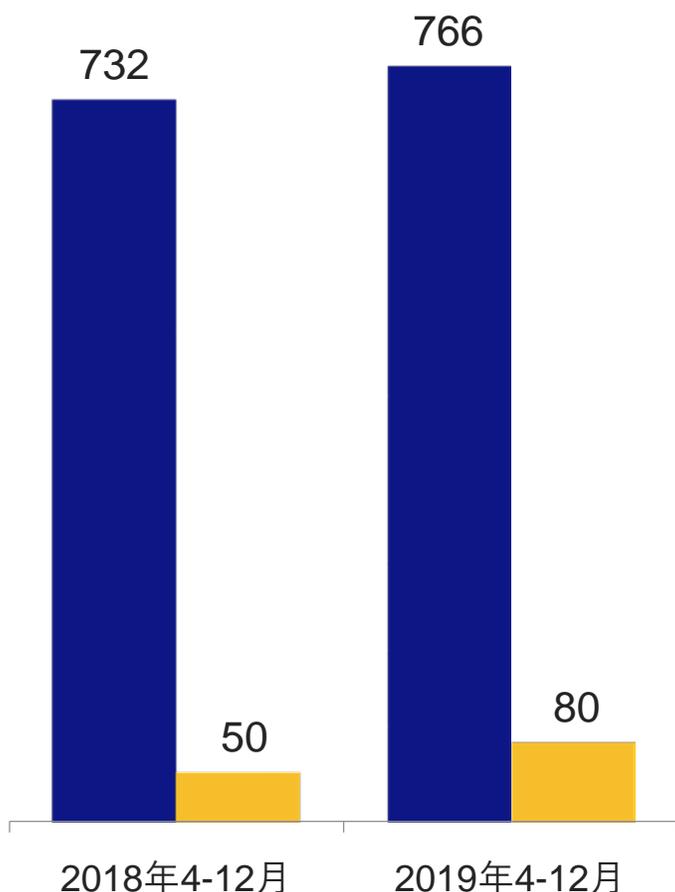
中国の潜在市場



2020年3月期 第3四半期実績 ⑤科学事業



■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



✓ 売上高

生物顕微鏡は全地域で好調に推移し、産業製品は工業用内視鏡の新製品効果や非破壊検査機器の北米を中心とした売上成長により、増収

✓ 営業損益

増収および販管費の効率的なコントロールにより、3Q、3Q累計ともに過去最高の営業利益

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	732	766	+5%	+8%
営業利益	50	80	+62%	+79%
その他の損益*	▲2	▲5	-	-
営業利益率	6.8%	10.5%		11.2%

第3四半期実績 (10-12月)

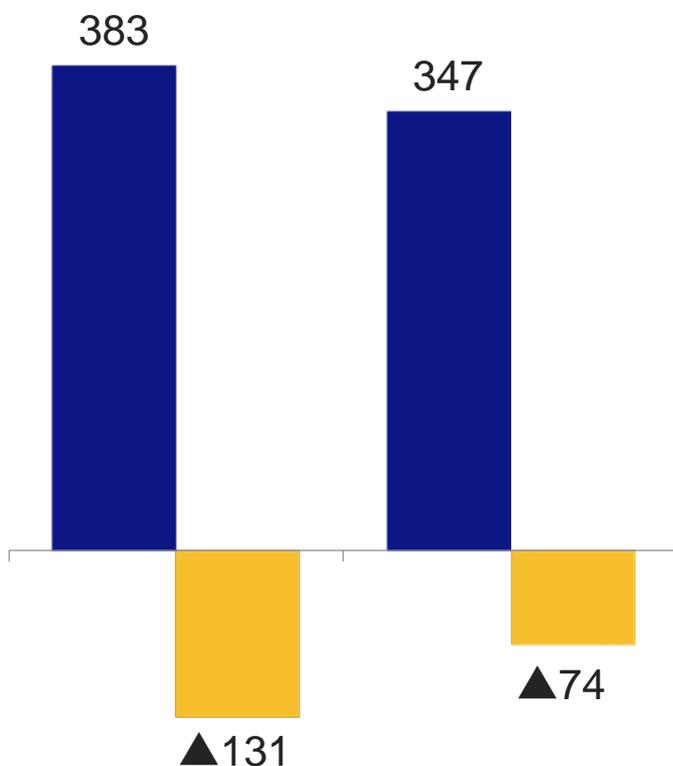
FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
259	269	+4%	+8%
22	26	+22%	+48%
0	▲2	-	-
8.3%	9.8%		11.4%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

2020年3月期 第3四半期実績 ⑥映像事業



■ 売上高 ■ 営業損益
(億円)



✓ 売上高

厳しい事業環境等に加え、上期は生産拠点再編の影響により新製品の導入がなく、減収。3Qは、新製品効果により増収

✓ 営業損益

前期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないこと、および販管費の効率化により、損失は縮小。3Qは、ミラーレス一眼の新製品導入により粗利が増加し、損益は改善

第3四半期累計実績 (4-12月)

単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	383	347	▲9%	▲6%
ミラーレス	282	260	▲8%	▲4%
コンパクト	59	50	▲14%	▲12%
その他	43	37	▲13%	▲10%
営業損益	▲131	▲74	+58億円	+61億円
その他の損益*	▲68	▲14	-	-
営業利益率	-	-	-	-

第3四半期実績 (10-12月)

FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
127	134	+6%	+10%
94	107	+14%	+18%
19	15	▲17%	▲14%
14	12	▲13%	▲9%
▲39	▲17	+22億円	+21億円
▲15	▲3	-	-
-	-	-	-

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

2018年4-12月 2019年4-12月

財政状態計算書

- ☑ 国際会計基準の新リース基準（IFRS第16号）を適用した影響により、資産、負債ともに増加
- ☑ 自己株式の取得により資本は減少

(単位：億円)	2019年3月末	2019年12月末	増減額
流動資産	4,560	4,836	+276
棚卸資産	1,536	1,679	+142
非流動資産	4,760	5,043	+283
有形固定資産	1,769	2,055	+286
無形資産・その他	1,979	1,989	+10
のれん	1,012	998	▲13
資産合計	9,320	9,879	+559

	2019年3月末	2019年12月末	増減額
流動負債	2,875	2,815	▲60
社債及び借入金	597	562	▲35
非流動負債	2,021	3,091	+1,070
社債及び借入金	1,216	2,109	+893
資本	4,424	3,973	▲451
自己資本比率	47.3%	40.1%	▲7.2pt
負債及び資本合計	9,320	9,879	+559

有利子負債：2,671（2019年3月末比+858）

連結キャッシュフロー計算書

☑ FCF：医療分野を中心とした営業利益の創出により、607億円のプラス

☑ 財務CF：2019年12月に社債を発行

✓ 300億円（利率0.06%、3年）、200億円（利率0.2%、5年）

第3四半期累計実績（4-12月）

（単位：億円）	2019年3月期	2020年3月期	増減
売上高	5,810	5,951	+140
営業利益	206	785	+579
営業利益率	3.5%	13.2%	+9.7pt
営業キャッシュフロー	366	1,057	+692
投資キャッシュフロー	▲438	▲450	▲12
フリーキャッシュフロー	▲73	607	+680
財務キャッシュフロー	▲516	▲290	+226
現金及び現金同等物期末残高	1,318	1,448	+131
減価償却費	430	505	+75
資本的支出	453	498	+45

02

2020年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

- 1 一時費用として十二指腸内視鏡対応費用約100億円を織り込むも、第3四半期までの実績を踏まえて、売上高および営業利益を上方修正

単位：億円	2020年3月期 11月6日公表見通し	2020年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	2019年3月期 通期実績
売上高	1 8,000	8,100	+100	+1%	7,939
売上総利益 (売上総利益率)	5,090 (63.6%)	5,090 (62.8%)	-	-	5,096 (64.2%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,130 (51.6%)	4,100 (50.6%)	▲30	▲1%	4,375 (55.1%)
その他の収益および費用等	▲60	▲70	▲10	▲10	▲438
営業利益 (営業利益率)	1 900 (11.3%)	920 (11.4%)	+20	+2%	283 (3.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	860 (10.8%)	870 (10.7%)	+10	+1%	201 (2.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	630 (7.9%)	640 (7.9%)	+10	+2%	81 (1.0%)
EPS	47円	48円			
円/USドル	108円	109円			
円/Euro	121円	121円			
円/CYN	15円	16円			

2020年3月期配当

年間配当10円を予定
(変更なし)

通期見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡・治療機器・科学： 第3四半期までの進捗を踏まえて、上方修正
- 2 映像： 厳しい事業環境等を考慮し、修正
- 3 全社消去： Transform Olympusに伴う先行投資により修正

単位：億円		2020年3月期 11月6日公表見通し	2020年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比
内視鏡	売上高	1 4,200	4,290	+90	+2%
	営業利益	1,050	1,100	+50	+5%
治療機器	売上高	2,170	2,200	+30	+1%
	営業利益	300	310	+10	+3%
科学	売上高	1,060	1,070	+10	+1%
	営業利益	110	110	-	-
映像	売上高	2 500	470	▲30	▲6%
	営業利益	▲70	▲90	▲20	▲20億円
その他	売上高	70	70	-	-
	営業利益	▲40	▲30	+10	+10億円
全社・消去	営業利益	3 ▲450	▲480	▲30	▲30億円
合計	売上高	8,000	8,100	+100	+1%
	営業利益	900	920	+20	+2%

十二指腸内視鏡の市場対応

✓ 2020年1月、米国で先端キャップ着脱式十二指腸内視鏡に対する法規制認可を取得

新製品は、洗浄・消毒の更なる容易化を目指し、着脱式のディスプレイ先端キャップを採用



✓ 先端キャップ固定式の対象製品を自主的に置き換え、 リプロセス作業（洗浄・消毒）のより簡便な実施をサポートする 先端キャップ着脱式の新型十二指腸内視鏡の早期普及を促進

次世代消化器内視鏡システム

今後、規制当局の承認が得られた市場から早期の市場導入を進める

病変の発見、鑑別診断、病期診断、処置に革新をもたらす技術により、内視鏡診断・処置の新スタンダードとなる内視鏡システム



発見



CADe¹

- AIによる病変の検出機能による病変の見逃し防止の支援

鑑別診断



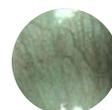
広被写界深度

- より広い深度の提供で拡大観察を容易とし、拡大内視鏡検査の普及

CADx²

- リアルタイムでのAIによる診断補助情報の提供

病期診断



拡大内視鏡技術

- 高拡大倍率、精細な画像情報の提供により精密な内視鏡診断

処置



血管可視化技術

- 血管の可視化による内視鏡処置の効率化



3D imaging

- 空間情報の提供による内視鏡処置の効率化とラーニングカーブ短縮

1. CADe – Computer-aided detection 2. CADx – Computer-aided diagnosis

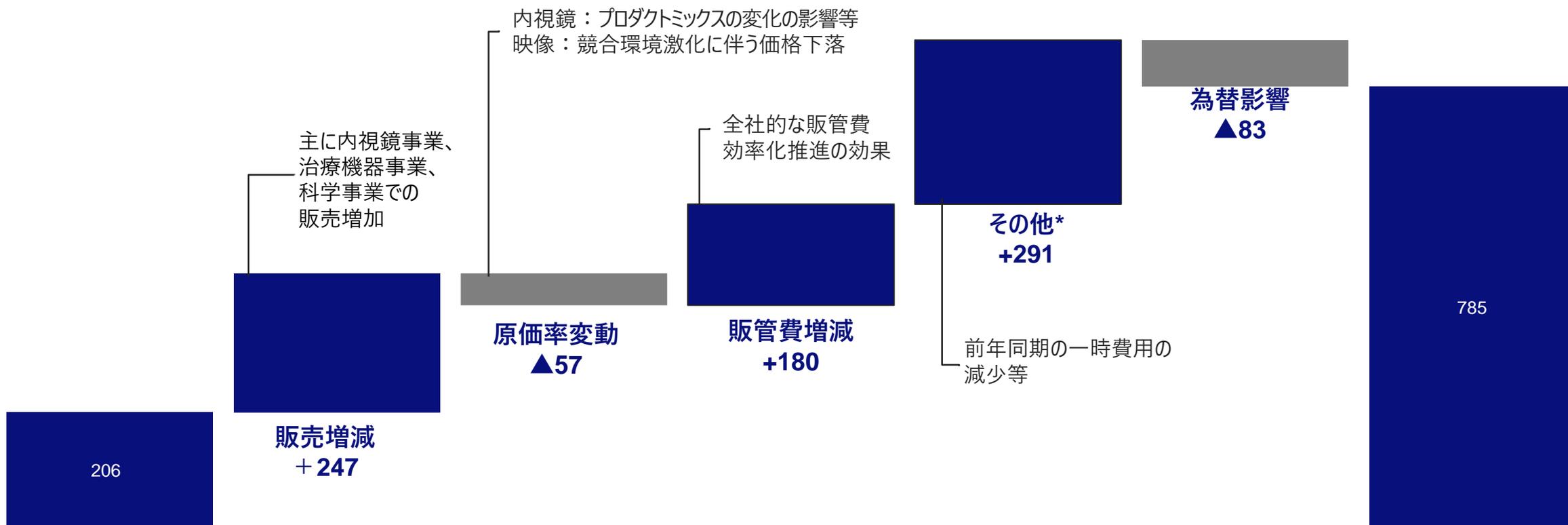
OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

03 Appendix

参考資料：2020年3月期 第3四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



2019年3月期
営業利益

2020年3月期
営業利益

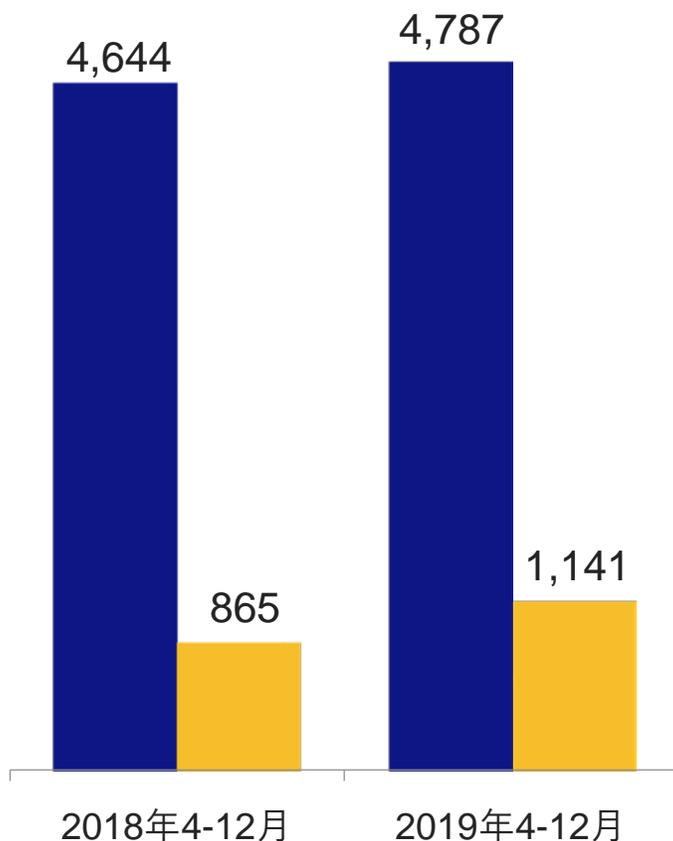
※前年同期に発生した主な一時費用

- 証券訴訟の和解金 194億円
- 米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用 97億円
- 中国生産子会社に対する訴訟の引当金 38億円
- 中国生産子会社操業停止に伴う費用 60億円

(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

参考資料：2020年3月期 第3四半期実績 医療事業

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



☑ 売上高

中国の高い売上成長を主要因に、過去最高の売上高
(為替影響除き+7%)

☑ 営業利益

全分野（内視鏡・外科・処置具）の増収および販管費の効率化等により、過去最高を更新

第3四半期累計実績（4-12月）

単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	4,644	4,787	+3%	+7%
内視鏡	2,478	2,582	+4%	+8%
外科	1,549	1,557	+1%	+4%
処置具	618	648	+5%	+8%
営業利益	865	1,141	+32%	+40%
その他の損益*	▲69	▲17	-	-
営業利益率	18.6%	23.8%		24.4%

第3四半期実績（10-12月）

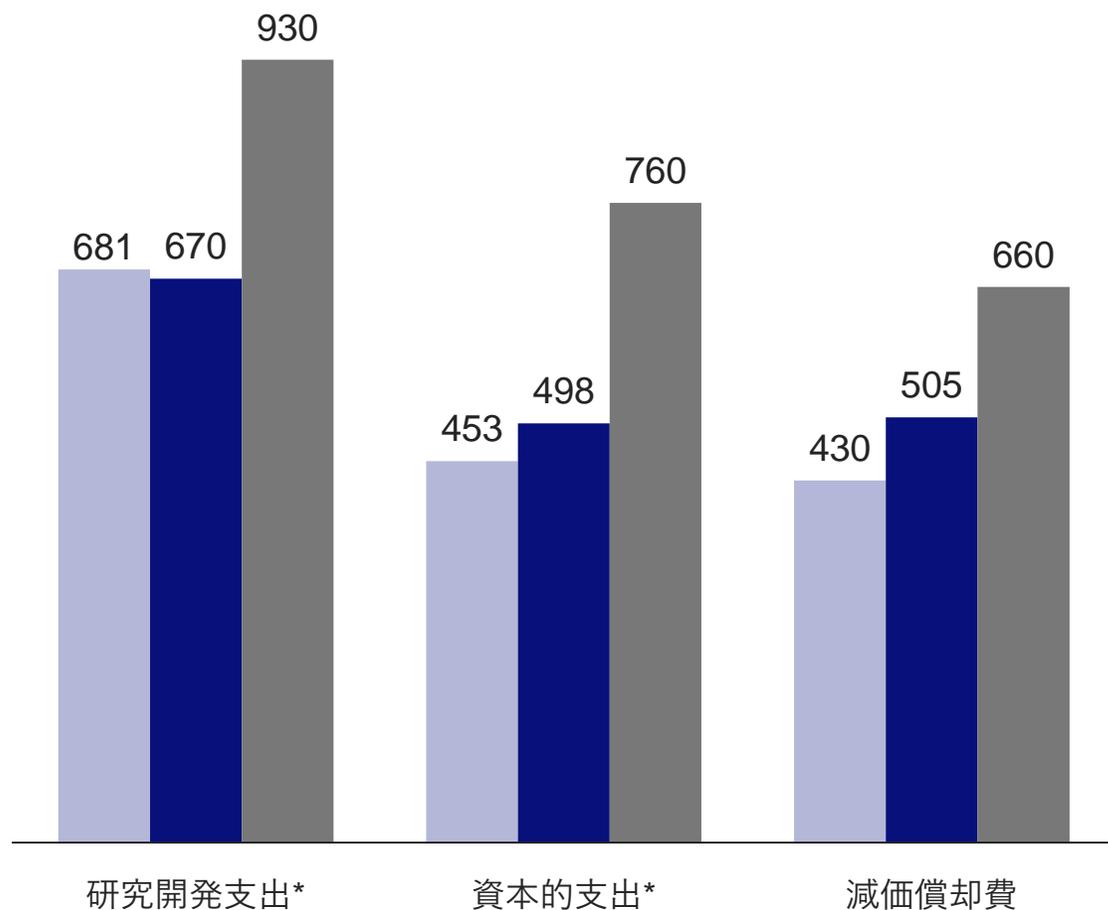
FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
1,588	1,639	+3%	+8%
838	900	+7%	+12%
541	521	▲4%	+1%
209	217	+4%	+8%
318	391	+23%	+34%
0	▲8	-	-
20.1%	23.8%		24.9%

* 決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

参考資料：投資等

第3四半期累計実績および通期見通し

(億円) ■ FY2019 3Q累計 ■ FY2020 3Q累計 ■ FY2020 通期見通し



(単位：億円)	FY2019 3Q累計	FY2020 3Q累計	FY2020 通期見通し
研究開発支出* (a)	681	670	930
開発費資産化 (b)	67	144	230
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	614	526	700

(単位：億円)	FY2019 3Q累計	FY2020 3Q累計
償却費	54	51

	2019年9月末	2019年12月末
開発資産残高	377	422

* 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています